

特集にあたって

大橋博樹

● 今日から多職種でポリファーマシーに介入しよう！

ポリファーマシーへの介入の重要性は近年あらゆる場面で強調されています。しかし、それが問題とはわかっていても、忙しい診療のなかでどのように介入すればよいかという具体的な方法についてはわからないという声を多く聞きます。それは、ポリファーマシーを生む要因が種々絡み合っており、その対応が難しいことが原因です。また、診療の現場では医療者も患者も、「薬の足し算」という行動を「薬の引き算」に変容することに苦慮しているのが現実です。今回の特集では、ポリファーマシーの負の弊害についての知識だけではなく、では現場でどのように介入していくかという視点で特集を企画しました。

ポリファーマシーこそ多職種連携抜きにして解決できません。今回は薬剤師の先生方にも解説いただき、医師・薬剤師両方の視点からポリファーマシーへの介入を考えていきたいと思います。

まずは、本特集の共同編者で薬剤師の八田重雄 先生に総論として、薬の引き算の難しさについて解説していただきました。そして、雨野雅之 先生・北 和也 先生には、日常診療では意外と気がつきにくい、薬剤の副作用やポリファーマシーに伴う相互作用について述べていただきました。処方の整理は具体的にどのように行えばよいのか？ 外来診療でのアプローチの基本を宮田靖志 先生、他院からの処方を整理するコツを薬剤師の視点から桑原秀徳 先生に事例をふまえて解説していただきました。ここで問題になるのが、薬剤師と医師の連携です。ポリファーマシーへの意識の高い薬剤師は増えてきていますが、個々の患者さんへの介入方法を理解していても、実際に処方する医師に伝わらなければ意味がありません。薬剤師と医師をつなぐツールとして最も重要な疑義照会について、真のあり方を青島周一 先生に解説していただきました。大須賀悠子 先生は診療所勤務の薬剤師で、訪問診療において医師に同行し、服薬指導やポリファーマシーへの介入などを行っています。今回は訪問診療におけるポリファーマシーへの介入について、服用困難な理由やその対策なども含めて述べていただきました。最近、入院

時のポリファーマシーへの介入も注目されています。退院時の病診連携のコツも含めて、矢吹拓先生に解説していただきました。またお薬手帳の使い方についてしっかり理解している医師はまだ少ないのが現状です。鈴木邦子先生には、ポリファーマシー対策としてのお薬手帳の活用方法や、かかりつけ薬剤師（薬局）とポリファーマシー対策について解説していただきました。ここまでで、明日から使える実践的なコツが満載になっていますが、診療の現場では、そんな努力をしても「それでも薬が飲みたい」と言う患者さんも少なくありません。では、そのようなときはどうするか？ 難しい命題について、福士元春先生に解説していただきました。また、コラムとして残薬を見つけたらどうすべきか？ 捨てるだけでよいのか？ という問題について佐藤一生先生に解説をいただき、また当院で取り組んでいる薬剤師外来について、八田重雄先生に事例紹介していただきました。

ポリファーマシーへの介入をはじめ、私自身が感じていることは、「ポリファーマシーのゴールはどこか？」ということです。10剤から5剤に減ったということは確かによいことですが、この数字だけ見ていると患者さんの思いに込めているのか、目標達成した自分に満足しているのかわからなくなることがあります。ポリファーマシーや内服アドヒアランスの問題は、患者さんの思いなくしては語れません。患者さんによっては、薬が多い方が安心という気持ちの方もいるでしょうし、飲み忘れだと医療者は考えていたが、実は飲むのを密かに拒否している患者さんもいるのです。このような患者さんの思いは医師だけでは到底理解できず、多職種での情報共有や対策の相談が必要であると、特に感じています。今回は、当院（川崎市多摩区）で連携している訪問看護師・ケアマネジャーをお招きして、多職種で挑むポリファーマシー対策について座談会を行いました。職種による視点の違いで、1人の患者さんへの介入方法がこんなにもあることを知り、また連携の重要性を強く感じるディスカッションとなりました。ぜひ、こちらをご覧ください。

本特集を通して、ポリファーマシーへの今日からできる介入方法と、多職種連携の重要性、特に問題点を共有し多職種で対策を話し合うことの大切さが伝われば、編者としてこれほど嬉しいことはありません。ぜひ、本特集を読んで実践してみてください！

プロフィール**大橋博樹 Hiroki Ohashi**

多摩ファミリークリニック 院長

川崎市で赤ちゃんからお年寄りまで「家族の主侍医」をコンセプトにしたクリニックで働いています。赤ちゃんの対応もお年寄りのケアも自信をもって診られるようになると家庭医は楽しいですよ。質にこだわった家庭医療を実践しています。いつでも見学大歓迎です！